

- 初めて対面で開催し、構成員59団体中33団体が出席。建設業振興基金の上浪氏を講師として招聘。
- 話題提供では、適正な労務費の確保や技能者の処遇改善に向けたCCUSを取り巻く最新の動向を説明。
- 基調講演では、CCUSのメリット享受のためには正しい技能者登録・現場登録が必要不可欠と強調。

開催概要

- ・日時：令和8年8月25日（火）13:30～15:30
- ・場所：札幌第一合同庁舎 10階第1・2共用会議室
- ・参加者：33団体／46名 ほかに報道3者
- ・開会：【会長】北海道開発局事業振興部長 田村 桂一
- ・議事：①話題提供、②講演、③意見交換、④質疑応答
- ・閉会：【会長代行】北海道開発局事業振興部調整官 佐藤 久泰

話題提供 「CCUS処遇改善推進北海道地方協議会及び全国協議会における取組について」 北海道開発局建設産業課長 塚原建二

・CCUSは、建設業政策の中で、これまで以上に重要な位置付けとされた。

・労務費に関する基準への対応、建設業の人材確保対策、建退共の電子ポイント制度との連携など、様々な施策がCCUSを基盤として進められている。

・CCUSは技能者の処遇改善を進めるための基盤であると同時に、建設業におけるDX・ICT化を支える重要な基盤でもある。

・技能者登録や就業履歴の活用により、事務作業の簡素化や現場・労務・人事管理の効率化を進めることで、生産性向上や利益確保にもつながる。

・CCUSを「収益力向上と人材確保のための経営ツール」と捉え、自社の利益向上や技能者の処遇改善にどのように活かすのか、ともに考え、進めていきたい。

・このほか、労務費に関する基準に係る取組、「CCUS利用拡大3か年計画」の取組、一人親方対策、建退共制度及び電子ポイント方式普及等を説明。



講演 「CCUS: メリットにつながる適正運用にフォーカスした普及促進活動の展開について」 (一社)建設業振興基金 建設キャリアアップシステム事業本部 審議役 上浪鉄郎 氏

・CCUSの利用で重要なことはタッチや登録そのものではなく、事業者IDと技能者情報の正しい紐付け、適切な職種登録、現場ごとの施工体制登録及び施工体制技能者登録により、現場で適正に運用し、メリットにつなげること。

・（メリット）これまで紙で行っていた作業の多くをデジタル化。

①事業者登録では法人情報や許可情報をデータベースから自動取得。

②有効な就業履歴により、能力評価や建退共との自動連携が可能に

③施工体制台帳や作業員名簿を自動作成。

・CCUSによる能力評価制度は、レベル2以上が全体の約8.6%。経歴証明制度の活用や手数料支援制度を利用し、技能者のレベルアップを進めるべき。

・国・自治体もモデル工事や補助制度、運用セミナーなどを通じてCCUSの適正運用を推進している。「CCUSは正しく使えば業務効率化や処遇改善につながる有効な仕組みであり、まずはできる現場から活用を始めてほしい」と強調。



意見交換

<民間構成員から主な意見>

- ・各団体の取組状況を報告（優良企業の取組事例周知、セミナー開催、キャンペーン後押し）
- ・課題の共有（二次以下の下請企業や技能者への普及、地方自治体との連携・協力構築）

<北海道建設部建設政策局建設管理課>

- ・CCUSモデル工事はR8年4月から原則、予定価格1千万以上を対象とし件数では従前の3倍に増加。
- ・積算でのCCUS費用計上の簡素化、工事施行成績評価における加点方法の見直しを実施。

<北海道開発局事業振興部>

- ・（技術管理課）直轄工事におけるCCUSモデル工事の対象、発注方式、工事成績での加点等を説明。
- ・（工事管理課）直轄工事を受注した業者に配布しているマニュアルを説明。

質疑応答



・カードリーダーを設置していない現場が多い中、10年間の就業履歴があっても蓄積出来ない問題や技能者が十分に知らない課題に対して、どのような対応が考えられるか。

・型枠や鉄筋の加工場が自らカードリーダーを設置することなどの対応が可能。

・今回の対面開催で得た知見や意見交換の結果を参加団体の構成企業も含め皆で共有していくことが重要です。

